



戸当たり乳量は 北海道トップクラス

Kunneppu Dairy farming

安全で高品質の生乳を生産している
「くねっぶの酪農」



訓子府での酪農は1907（明治40）年、わずか牛5頭から始まりました。1962（昭和37）年にはホクレンの増殖事業センターを誘致し、種牛牛舎、人工授精所など畜産総合施設を設け、当時は東洋一といわれた総合牧場ができました。また、昭和44年には乳用雌牛の預託育成を目的とした、訓子府町共同利用模範牧場を美園に開設し、戸当たり草地面積が少ない酪農家の飼養頭数拡大に寄与してきました。以降、訓子府の酪農はめざましく発展。優秀な乳牛を数多く飼育し、高品質の生乳を出荷してきました。

乳量などの日本記録を数多く出すなど、酪農王国・北海道の中でも訓子府は、上位の成績を収めていました。最盛期は118戸の酪農家がありましたが、現在は40戸ほどに減少しています。近年は耕畜連携による地域内循環型農業を進めており、訓子府らしい酪農の在り方を展開しています。また、未経験でも酪農に興味があり、酪農後継者を志す人を対象に、農協と受入農家が協議会を組織して、町の支援のもとで「酪農実習生受入制度」が始まりました。さらに、新規就農の支援も行っています。

耕畜連携して地域資源を循環
乳量・乳質の向上をめざす

訓子府町酪農振興会 会長

高倉 昌勝さん



訓子府で酪農に従事して45年。最近、搾乳や給餌、牛舎の掃除などのオートメーション化が進み、酪農の業務は随分変わりました。とはいえ、健康な牛を育て、乳質と乳量を向上させ、安全で安心な生乳をつくりたいという気持ちは変わりません。訓子府では耕畜連携が進んでおり、乳牛の敷料として使う麦わらと堆肥の交換をしています。また、良質な生乳生産を推進するため、さまざまな勉強会や検査・治療なども積極的にを行っています。訓子府は酪農関連施設が整い、働きやすい環境ではありますが、後継者が不足していますので、酪農実習生や新規就農を志す人たちに応援していきたいですね。

訓子府の 後継者たち

訓子府が開拓されて以来培われている開拓者精神や郷土愛は、ここで生まれ育ち、これからの担い手者たちにもしっかり受け継がれています。次世代を担うJAきたみらい青年部訓子府支部の3名、訓子府町商工会青年部の3名に、現状の課題、そして今後の展望などを語ってもらいました。

訓子府を支える 若者の取り組み

仁木／訓子府町商工会では4年ほど前から、ご当地グルメとして「たれカツ丼」のPRに力を入れています。オリジナルキャラクター「たれカツ乙女くるねちゃん」をつくり、イベントなどにも参加しています。

佐野／「たれカツ丼」は、それぞれのお店でオリジナルのタレを使っているのですが、味も個性があって美味しいです。

柴田／訓子府町民のソウルフードといえる「たれカツ丼」を多くの人に知ってもらうことは、訓子府のPRにもなると考えています。

藤森／私たちは農家なので、安全で、おいしく、良いものをつくることに日々懸命。JAきたみらい青年部としての活動には参加していますが、それ以外の活動はなかなか手が回りません。

上原／農業は栽培品目ごとに振興会などに所属し、勉強会などの集いも増えています。

風早／日々の作業量も多いので毎日時間が足りないですが、毎日しっかり働くことが、訓子府の未来につながると思っています。



風早 央知さん
JAきたみらい青年部
訓子府支部副支部長
老舗農家の5代目。エコファーマーに登録。ジャガイモ、秋小麦、ビート、小豆、スイートコーンなどを栽培。農業後継者の減少を危惧しているそうです。

上原 寛隆さん
JAきたみらい青年部
訓子府支部副支部長
訓子府に移植した農家の4代目。小麦、ビート、種子馬鈴しょ、スイートコーン、メロンなどを栽培。「やりたいことをやる農家」をめざしています。

藤森 秀志さん
JAきたみらい青年部
訓子府支部支部長
大学卒業後、家業の農業を継ぐ。今年で農家歴12年目。「常によいものづくり」を第一に考え、タマネギ、ジャガイモ、小麦、ビートを中心に生産しています。

仁木 義人さん
訓子府町商工会
青年部部長
地域密着型の薬局「マルニ薬局」にて医薬品販売に従事。2006年、第一子の誕生を機に訓子府へUターン。町民の健康をサポートすることに努めています。

佐野 裕章さん
訓子府町商工会
青年部副部長
佐野看板塗装店の3代目。家業を継ぐためエンジニアから転職して9年目。見た目の美しさだけでなく、機能性や安全性を考慮して塗装を手掛けている。

柴田 将兵さん
訓子府町商工会
青年部副部長
柴田石材工業の3代目。建墓はもちろんメンテナンスや解体・撤去まで担い、記念碑や石碑、石材小物も扱う。モットーは「丁寧に素早い仕事」とか。



地域の魅力を生かしたまちづくり
 藤森／訓子府町の開基120年ということイベントが目白押し。農業と商工が一丸となって「ふるさとまつり」などを運営でき、良い刺激になりました。
 仁木／実は訓子府を盛り上げていくために職業の枠を越えて『くんねっぴー倶楽部』を平成26年に立ち上げました。
 柴田／『くんねっぴー倶楽部』の『I』は、私を意味する『I』で、訓子府を愛しているの『I』でもあります。フリーマーケット開催や近隣のまちのイベントに参加。イベントに参加するたびに、もっと訓子府の魅力が伝わるものを生み出したいと思うんです。
 佐野／せっかく「たれカツ丼」のキャラクター「くるねちゃん」をつくったのでグッズ展開してみたいですね。ゆるキャラ

ラといわれるものが多い中、淑やかな萌えキャラの「くるねちゃん」は個性があつて良いと思います。
 柴田／以前参加したイベントで、訓子府のイチゴをソースにして、かき氷を提供。好評で手応えもありました。次回は訓子府メロンでソースをつくりたい。この試みは新たなご当地商品につなげられないかと考えています。
 仁木／できれば生産者と一緒に、訓子府の新しいご当地グルメをつくりたい。訓子府の農産物は品質が良いので、そのまま十分とされています。その評価はありがたいものだけに、加工してさらに付加価値を高めたいです。
 風早／良い考えですね。今は、良いものをつくることで精一杯なので、これから考えていきたいです。
 上原／訓子府の魅力は「自然」。この自然を守りたい。たとえば、常呂川河川敷の清掃活動を通して、新しい取り組みはできないだろうかと考えています。



Discussion

訓子府の次世代を担う若者たちが
 我がまちの現状と未来
 それぞれの目標を語ってくれました。

暮らしやすいまち訓子府

仁木／進学と就職のため訓子府を離れていましたが、離れていたからこそ訓子府の住みやすさがわかりました。
 風早／幼い頃から家業である農業を継ぐことを考えていたので、むしろ大学時代に訓子府から離れて視野を広げられたのは良かったと思います。
 柴田／都会の便利さも知っていますが、隣の北見に行けば大抵の用事は済ませられるので、訓子府にいて不便は感じません。むしろ、訓子府の穏やかで心地よい空気が気に入っています。
 仁木／訓子府は町の教育・福祉制度が充実していると思います。こども園もできたので、安心して子どもを預けられ、子育てしやすい環境が整っていると
 上原／子育てをする環境はいいのに、ほかの市町村と同じく訓子府も少子化は進んでいます。町の活性化には家族を増やし、子どもの数も増えることが大切ですね。
 藤森／若者同士の交流や婚活イベントのようなものは、商工会で取り組まれる



訓子府の豊かな未来をめざして

仁木／高齢者が増えるので、いわゆる買い物弱者を救う独自システムをつくりたいと思っています。
 佐野／大手のインターネットサービスもありますよ。
 仁木／できれば訓子府の商店街の商品を町民に届ける、ぬくもりのあるサービスをつくりたいです。訓子府だけの、訓子府ならではの仕組みを考えたい。
 上原／ところで、共働きの家庭は多いと思いますが、訓子府で農業をするという職業の選択肢はないのでしょうか。
 柴田／やってみたい人はいるはず。
 上原／耕作放棄地が増えるより、有効に活用した方が良いと思っています。そのため解決すべき課題はありますが、農業に関わる人が増えるのは訓子府の発展にもなるはず。
 柴田／農作業の手伝いとは違うからハードルは高いけれど、やりがいもありそう。



ていますか？
 佐野／平成26年から飲食店の活性化、町民の交流・出合いの機会創出をめざして「はしご酒」イベントの企画・運営をしています。
 上原／訓子府はシャイな人が多いから、そういうイベントがないと出会う機会もないので大事ですね。ぜひ商工会には、ユニークな発想と企画でおもしろいことをしてほしいです。
 仁木／少子化問題は後継者問題でもありませんから、婚活を含めた人口減少などの問題は、商工と農業とが関係なく、訓子府町民として取り組んでいく必要がありますね。



風早／まずは小規模な農業になるので、自家用やまちの人に提供するために、野菜をつくるのがいいかもしれません。
 藤森／農家を引退した人に指導してもらえると、栽培品目も増えるし、技術や知識の継承にもなりますね。
 柴田／新しい加工品ができるチャンスにもなるかも。お互いに話してみないと分からないこともありますね。
 仁木／今回の座談会で、組織間の交流の大切さを再確認しました。
 藤森／10年後の若い人のため、訓子府のため、われわれが頑張らしましょう。



■すずらんみそ

1921(大正10)年から続く太田醸造で、手づくりされている味噌。すずらんみそは、飽きのこないサラッとした自然の味と香りが特長で、みそ汁、みそ煮、みそ漬けなどに最適です。



■はちみつ

親子三代にわたって、はちみつを作り続ける菅野養蜂場。いまは純国産天然はちみつとして訓子府町の特産品であり、オホーツクブランドにも認証されました。さらに、はちみつのお酒「菩提樹のミード」が2014年に誕生して注目を浴びています。

■うどん

訓子府町で多く収穫されている小麦「きたほなみ」を使用したうどんを製造している日の出めん。しっかりとしたコンと歯ごたえが感じられる、モチモチの「半生うどん」とツルツルの「生うどん」があります。



■お菓子

菓子司みやげでは、ミルクの風味豊かな「牛乳羊羹」やパイまんじゅう「銀河鉄道の旅」など。羽前屋菓子舗では、訓子府町の町花をイメージした「エゾムラサキツツジ」や「銀河浪漫」など地元銘菓も各種あります。

■むらさきしきぶ

訓子府町産の無農薬有機栽培ちりめん赤シソを使い、さらさら本舗で作られたジュース。水や添加物を一切使用せず、グラニュー糖や二種類の酢で作られたこだわりの一品です。5~6倍に希釈するとさわやかなドリンクとして、また、そのまま調味料としてマリネなどにも使えます。



訓子府を代表するご当地グルメ

■訓子府たれカツ丼

カツ丼といえばトンカツを卵でとじるものが定番ですが、訓子府では卵でとじずに、特製のしょう油ベースのタレをかけた「たれカツ丼」が定番です。現在、町内にあるほとんどの食事処で味わうことができ、訓子府のご当地グルメとして人気のメニューになっています。



くんねっふたれカツ丼 イメージキャラクター たれカツ乙女 くるねちゃん



■本格焼酎 訓粹

訓子府育ちのジャガイモ「スノーマーチ」を使った焼酎。ほのかに芋の香りがあり、くせがなく飲みやすいのが特長です。



地域の魅力が詰まった 訓子府ブランド

オホーツク管内で面積が一番小さい訓子府町。しかし、農業粗生産高は132億円以上(平成27年農協農業粗生産高)もあり、7つの生産者組織からなる訓子府町クリー農業推進協議会では、安心な農作物の生産をめざしています。

訓子府町を代表する特産品も各種あり、とりわけ訓子府町を含む北見地方のタマネギは全国一の生産量を誇ります。このほかメロン、ジャガイモ、小麦、ビート、トウモロコシなど高品質でおいしい作物が多数収穫されています。さらに、それらを用いた特産品やご当地グルメも各種あります。

また、6月から11月までの毎週日曜日は、訓子府町農業交流センター(旧訓子府駅舎)で行われている生産農家直営の農産物直売所「ファーマーズマーケット夢ミール」で、朝採りたての新鮮で安心安全、そして美味しい農産物を取り揃えて販売しています。

最近では若い酪農家による牛乳やアイスクリーム販売など、新たな取り組みも始まっています。また、訓子府町では生産者と商工会が連携して町の特産品の普及やPR活動推進のため、さまざまな取り組みが進められています。



■メロン

日照時間に恵まれ、昼夜の気温差が大きいことから、訓子府ではまろやかな口当たりで甘味の強いメロンを栽培。生産者名を記入したシールを貼り、出荷ダンボールには品質保証書を付けるなど、生産者の責任と誇りを感じさせる逸品です。

くんねっふ メロン&農産物



■タマネギ

訓子府町は全国有数のタマネギ産地で、さまざまな品種を栽培しています。極早生種「北早生3号」、早生種「オホーツク1号」、中晩生種「北のみじ2000」、赤タマネギも栽培。

■ジャガイモ

病害虫に強い新品種「スノーマーチ」は、収穫後貯蔵して甘みが増す12月~1月頃に出荷。卵型で皮がむきやすく、火の通りも早く、煮くずれも少ないので、煮込み料理に向いています。変色しにくいのでポテトサラダにも適しています。





認定こども園開園式

4月2日、認定こども園「わくわく園」の開園式が行われ、園児や保護者ら約260人とともに盛大に開園を祝いました。園児による遊戯や本町出身の松岡義和氏が作詞、小野朋之氏(訓子府中学校長)が作曲した園歌「風の子 雪の子 大地の子」の披露が行われました。また園児から工事関係者へ感謝状を送るなど、華やかで心温まる開園式となりました。フィナーレは、園児と母親らが中庭「はだしの庭」に集い、夢や願いを託した色とりどりのバルーンを大空へ飛ばしました。



開基120年記念式典

11月1日の記念式典・祝賀会は、町公民館で約200人が出席して行われました。「先人とともに築いた120年」のスライドショーで式典の幕が開け、訓子府高校の生徒による町民憲章の朗唱、そして菊池一春町長は「先人の労苦に感謝して困難から立ち上がる勇気を持ち、町を発展させることを誓います。」と式辞を述べました。町の発展に尽くされた方々の表彰も行われ、祝賀会では町民合唱団KNPが「わが地・わが町 訓子府」などの歌を披露し、盛大な祝宴となりました。



北海道日本ハムファイターズ関連事業

「北海道179市町村応援大使」プロジェクトで、4月23日には訓子府KL球友と訓中野球部が参加して、日本ハムファイターズのOB立石尚行さんと池田剛基さんによる少年野球教室が開催されました。7月24日には町民80名が札幌ドームで試合観戦し、11月21日は矢野謙次選手と谷口雄也選手による「トークショー」が行われました。2選手が来場者からの質疑応答に答え、サイン入りのレプリカユニホームやボールが当たる抽選会、記念撮影、訓中野球部を対象にした野球指導などが行われました。



くんねっぷふるさとまつり

今回で37回目となる訓子府の夏の風物詩。7月9日の前夜祭は、町内の太鼓チームによる迫力ある演奏で幕が開け、キッズダンスや訓子府音頭などで会場を盛り上げ、行灯パレードや花火大会で夏の夜を彩りました。7月10日の本祭では、「歌と笑いのステージ」や青年4団体によるイベントなどが催され、大変にぎわいました。また、今回は開基120年記念であることから姉妹まちの津野町から「津野山古式神楽保存会」の方々による津野山古式神楽の披露も行われました。

訓子府町開基120年記念事業

あした

未来へつなぐ笑顔のまち

訓子府町開基120年を迎えた2016(平成28)年。「みんなで作った120年 僕らがつなぐくんねっぷ」を合言葉に、訓子府の美しい景色や人々の笑顔がたくさん寄せられた「フォトコンテスト」、24年ぶりに復活した「町民運動会」、町民が姉妹まち高知県津野町などに訪問する「開拓の歴史を訪ねる旅」など、さまざまな記念行事を開催。町民とともに節目を祝い、さらなる繁栄を誓いました。



開基120年記念町民運動会

6月19日、訓子府小学校グラウンドで「町民運動会」が24年ぶりに復活開催されました。町民約1000名が参加して、地区ごとにチーム編成され、さらに東西に分かれて、大綱引き、チーム対抗大リレーなど12種目を競いました。工夫を凝らした「減点玉入れ」や「O×クイズ」では笑いが巻き起こり大変盛り上がりました。東軍が勝利を収めました、互いに賛辞と拍手を送り合いました。

